



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occ.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫

◎石叫■

「信仰とは生きること」

使徒パウロは聖霊によってエルサレムに住む貧しい信徒を助けるために献金を携えてゆくと決断した(使徒行伝十九・21)。そのためにどこで献金を募ったのかというと、マケドニアとアカヤというギリシヤ南部の地域であった。それでは彼らが豊かな生活をしていたのかというと、そうではない。「彼らは、患難のために激しい試練を受けたが、そのあふれる喜びは、極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て惜しみなく施す富となった」(IIコリント八・2)とあるように、彼らはクリスチャンに対する迫害の中で極度の貧しさにあつた。余りある物を捧げるのは痛くも痒くもないが、厳しい生活の中で捧げるというのには勇気が要る。でも、パウロはそれを百も千も承知の上で彼らにチャレンジしたのだった。パウロはそれが「神の恵み」(八・1)だったという。生きるか死ぬかという状況の中で、捧げることがどうして恵みなのであるのか。しかもマケドニアの人々は熱心にそれを願い出たとさえある。われ先に自分の持つているものを喜んで捧げたというのだ。一体これはどういうことなのであるか。

それはちようどザレパテのやもめにパンを請う預言者エリヤのようである。彼女は最後に残った一握りの粉と少しの油でもつてパンを作り、それを子供と一緒に食べて死ぬつもりだったのだ。そこにエリヤがきて先ず、「一口のパンを持つて来てくれ」と言う。幾ら何でも、そんな酷な話はない。でも、神はそれをよくご承知でその女性に挑戦しているのである。それはエリヤが、「主が雨を地のおもてに降らす日まで、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えない」(I列王十七・14)という神の約束をハッキリと聞いていたからである。神の主旨は何の身寄りもない貧しいやもめを生かすことだったからだ。たとえ最後のパンを食べても一日の命しかない。それだったらエリヤの言葉を信じようと、やもめはエリヤの神に賭けたのである。それによって彼女は三年近くの間、生き延びたのである。しかし、そのかめもビンもいつも満杯ではなかったであろう。一日を支える分量でしかなかったに違いない。というのも、「あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である」(マタイ六・34)とあるように、信仰とは今日のこと熱中し、毎日に心を神に向ける闘いだからである。だから彼女は朝毎に、かめのふたを開け、びんの油を見るたび毎に神が必要を満たして下さることを知って、絶えず神に賛美と感謝を捧げたに違いない。実に信仰こそ、この世を生きてゆく力である。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

